

1 事業内容

団体名	一般社団法人エシカルプラス
事業名	災害対策トレーニング in 釧路
課題テーマ	地域を担う人材育成・安心して暮らせる都市
事業提案の背景	大災害リスクの高い釧路市では、運営主体が市民となる中・長期の避難所運営を担う為の、知識とマネジメント能力を得た人材の育成が急務である。性別に関係なく、個々が基本的知識を習得し、地域課題を捉えたマニュアル等の作成とリスクマネジメントの強化が必要と考える。
事業目的	世代間ギャップやアンコンシャスバイアスを超え、市民が自発的に運営活動できるよう、フェーズフリーな災害対策トレーニングを実施し、各指定避難所共有のマニュアル等の考案と、女性でも参加しやすい避難所運営に特化した事業内容とする。
事業内容	<p>【災害対策トレーニングワークショップの開催】</p> <p>シニア世代：町内会等単位の参加者に対して、ミニ講座と介護予防運動を兼ねた、避難時に対応力を強化するファンクショナルトレーニングを定期実施（前後の避難行動と意識調査を実施）</p> <p>若年層：避難所でのリスクを協議しながら、ジェンダーフリーなマニュアル等の作成を目標に数回実施（日常の防犯意識の向上も兼ねる内容とする）</p> <p>【専門家による講演会と事例検討会】</p> <p>災害対策のプロを講師に迎え、公助（行政）共助・自助それぞれの課題を情報共有し、課題解決に向けディスカッションする。</p> <p>【防災危機管理課等との情報交換会】</p> <p>中長期避難所運営に関わる意思決定や災害時のガバナンスについて、勉強会を開催する。</p>
成果目標の達成状況	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護予防運動を兼ねた機能訓練クラスを実施した中で、災害時の対応ミニレクチャーを交えたことで、シニア世代の自発的参加者が増えた。 2. 20代の参加者とは、ジェンダーやインクルーシブ視点のディスカッションを交えたWSにし、災害時における自らの行動を性別関係なく自主的に避難所運営をする意識を高められた。 3. 専門家による災害対策の基本的知識を得たことで、共助・自助の部分を強化する認識を得られた。

波及効果の達成状況	SNS 発信や、FM くしろからの広報、新聞媒体にて本事業を PR したことにより、教育分野、行政、医療、民間企業、学生、町内会等、関心が集まり、災害時に顔の見える関係が広く構築された。
実施体制	社) エシカルプラス 地域防災マスター2名 東京大学生産技術研究所災害対策トレーニング1期生1名 同志社女子大学(大倉ゼミ)学生(事例協力) 東京大学生産技術研究所災害対策トレーニングセンター准教授 音別地区ボランティア
連携した市担当課	無 ・ ㊦ (総務 部 防災危機管理 課)
連携した市担当課が果たした役割 (※有の場合)	事前に情報交換と釧路市の災害時の役割を情報共有できたことで、共助・自助の災害対策に特化した事業として内容が有益なものになった。 PR・後援等をサポートして頂き、事業の深みが出て参加者増にもつながった。

2 支出決算書と支出内訳

(収入)

費目	決算額 (円)	内訳
輝くまちづくり交付金	250,000	
自己資金	5,502	
合計	255,502	

(支出)

費目	決算額 (円)	内訳
対象経費		
謝礼	25,000	講師謝礼 (2名)
印刷製本費	31,401	フライヤー・マニュアル案・表示板・ポスター
消耗品費	22,506	感染症対策物品・文房具・救急セット 他
役務費	33,110	広告費・振込手数料
使用料・賃借料	43,830	講演会・ワークショップ (10回分) 会議 (打合せ含)
旅費	96,655	旅費 (航空券・宿泊・電車 or バス) 講師分
小計	252,502	
対象外経費		
謝礼	3,000	全体事業費の1割を超える部分
小計	3,000	
合計	255,502	